

## 1 ひやくまん穀の目標収量構成要素（奥能登）

項目	単収 (kg/10a)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	総粒数 (粒/m <sup>2</sup> )
目標値	660	340	86.0	86.0	26.3	29,500
(H30)	522	339	84.6	84.0	24.8	28,515

ひやくまん穀は

**単収700kg/10aを得られる資質を持つ品種**ですが、その資質を存分に引き出すためには、**品種特性を良く理解し、地域の気象、土壌、推理条件等に応じた栽培管理技術の徹底**が必要になります。

## 2 ここが違うよ！「ひやくまん穀」

「ひやくまん穀」は、皆さんがこれまで作り慣れた「コシヒカリ」や「ゆめみづほ」とは**品種特性が大きく異なります**。

→ 「コシヒカリ」や「ゆめみづほ」と同様の管理では目標とする収量や品質を得られません

品 種 名	ひやくまん穀	コシヒカリ	ゆめみづほ
早 晩 性	晩生	中生	早生
出 穂 期	8月上旬	7月下旬～8月上旬	7月中～下旬
登 熟 日 数	40～45	35～40	30～35
草 型	穂重型	中間型	穂数型
穂 数 / m <sup>2</sup>	360	390	460
穂 長	長い	中間	短い
粒 数 / 穂	86	72	63
収 穫 時 期	9月下旬～10月初旬	9月上～中旬	8月下旬
収穫適期の判断	やや難	易	易
穂 発 芽 性	やや難	難	難

晩生の穂重型品種であるため、田植後、早期に良質な分けつを発生させ、6月中旬までに必要な茎数（360本/m<sup>2</sup>）を確保する必要があります。

### 3 土づくりを行いましたか？

- 秋に以下の土づくりを行いましたか？
  - (1) 作付前または現在、土壌分析を実施し、圃場の土壌状態を把握した
  - (2) 土壌分析結果に対応した土壌改良資材の施用や堆肥散布等を行った
  - (3) 昨年秋の耕起を作土層が15cm以上確保するように行った
- これから土づくりを行うには・・・（秋に土づくりを行っていない場合）
  - (1) 土壌改良資材（ケイカル等）を施用する
  - (2) 春に作土層を15cm以上確保するように荒耕起を行う

### 4 計画的な育苗が目標穂数を確保するためのスタート

(1) **播種作業は計画的に** : **5月10日までに稚苗を田植え**するために

- ① 稚苗（2.0～2.5葉）を植えること  
→ 2.5葉以降の老化苗を避ける
- ② 5月連休中の田植により8月10日までに収穫させる  
→ 出穂以降、登熟に必要な気温、日照を十分に得るため



育苗日数の目安

播種	田植	育苗日数
4月5日	5月1日	26日
4月10日	5月5日	25日
4月15日	5月10日	25日

8.5葉期（6月中旬）までに穂になる茎を確保するのはなぜか？

→ 8.5葉期以降に発生した分けつは穂になりません

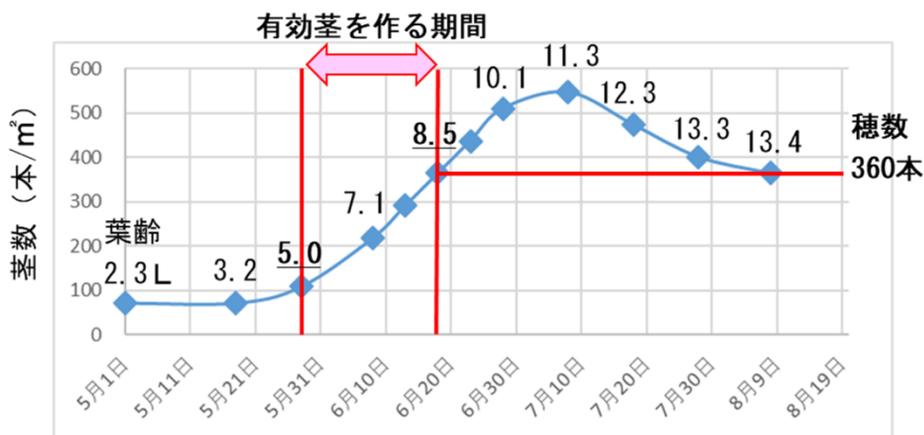


図 60株/3.3㎡の葉齢展開と茎数の推移（イメージ）